

## 第172回 Child Abuse研究会

2021.1.23/オンライン開催/参加申込者 106名

テーマ：発達障害の理解と子ども虐待  
～包括的虐待という視点から～

講師：橋本 和明氏 (花園大学 教授)

講師の橋本和明先生は虐待の被害者を犯罪の加害者にしないために、発達障害をもつ子どもや非行少年への関わりを長年続けてこられました。ここでは最初に「包括的虐待」についてのお話がありました。

子ども虐待、配偶者虐待、動物虐待、障害者虐待、高齢者虐待、家庭内虐待、施設内虐待これら全てを「包括的虐待」と呼び、包括的に捉えることの利点として①各虐待間の関係や移行、変容についての理解が深まる、②多面的な人間関係の理解が可能となる、③役割や立場を基盤にした虐待へのアプローチが可能になる、④共通項の理解がしやすい、⑤虐待に隣接する様々な問題にも理解が広がる、の5点をあげられました。

また、発達障害が虐待のリスクになる要因では当該児童の共感性が十分でなく、愛着関係が築きにくいこと、発達のスピードが緩やかで学習が円滑にいかないこと、周囲からは障害がわかりにくく特別な配慮が認識しにくいこと、子ども自身も躓きに気づきにくく、劣等感を抱き言いたしにくいことが考えられるとのことでした。

その他にも愛着障害と発達障害の違いやその見極めの難しさ、また虐待によって脳の器質的变化までおこり発達障害が生まれるとも言われていると話されました。さらに、複雑性PTSDは逃げることの困難な長期に及ぶあるいは反復する出来事に曝された後に生じ、その例として虐待があげられていることに、子ども虐待の及ぼす影響の大きさと深さを再認識させられました。

後半は「発達障害をもつ保護者の子育て」についてお聴きしましたが、その前に「子育てには何が必要か」ということにふれられました。それは社会性(保護者の社会性を子どもに育ませること)、共感性(子どもの身になって考える)、柔軟性(子どものその時々状況に即した対応)、多様性(子どもは様々なかたちで大きくなっていく)であるということでした。

続いて発達障害のある保護者への支援で重要なことを次のように話されました。①評価や批判をせずアセスメントする、②保護者に適した子育てを発見する、③わかりやすく具体的に示す、④つながる方法をさぐる⑤見通しを持たせる、⑥ハードルをさげ、スモールステップを心掛ける、⑦クールダウンなど回避する方法を提示する、⑧医療機関との連携や活用、⑨家族をサポートする、⑩生活臨床の視点をもってアプローチする。これらは発達障害のある子どもへの支援と共通する点も多く、当然といえば当然なのですが、大人になってからもその特性を理解し対応していくことが求められることを忘れてはいけないと思いました。

最後に「情動を示す言葉の特徴」を気体・液体・固体で表され、液体としての感情の動き(情動)は大事で、感情に流れができると生活の流れやリズムができ「また明日」と思える。そうすると情の交流がうまれるとのことお話しに残りました。

## 2021年度 基礎講座・実践講座のお知らせ

オープン講座として開催していました講座を、新たに基礎講座・実践講座として開催いたします。子ども虐待に関する基礎的内容から実践の具体的な実務に役立つ知識・技術を修得して頂くためのプログラムを再編しています。

オンライン配信(ライブ配信、オンデマンド配信予定)により、近畿圏以外の方もより参加しやすくなります。また2020年度は全国から視聴していただいております。ぜひお申込みください。

講座	日	時	講師
基礎講座	7月30日(金)	9:30~14:30	小杉 恵氏 亀岡 智美氏
	7月31日(土)	10:00~14:30	神田真知子氏 中村 善彦氏
	8月 1日(日)	10:00~14:30	遠藤 利彦氏 鷺山 拓男氏
実践講座	8月29日(日)	13:00~15:00	亀岡 智美氏
	9月 5日(日)	13:00~15:00	遠藤 利彦氏

(予定：配信日時、期間、配信方法、申し込み方法等、詳細は後日ホームページでご案内します。)